

# 林業大学校における入学試験の種類による 学生生活に対する考えの違い

名古屋大学農学部 小川 高広

## 要旨

林業大学校の学生に質問紙調査を行い、学生が受けた入学試験の種類（一般入試や推薦入試）が、学生生活に及ぼす影響について検証しました。その結果、学生は入学試験の種類に関わらず、林業大学校での学生生活を肯定的に考えており、林業の知識・スキルや興味関心を高める上で林業大学校での様々な活動についても重要視していました。林業に関する知識・スキルについては、向上を実感していました。

一般入試入学者や推薦入試入学者には共通の考えが多くの質問項目で見られましたが、一般入試入学者は推薦入試入学者よりも、肯定的な考えなどの割合がより高い傾向が見られました。

## はじめに

林業大学校は全国各地で新設が相次ぎ、今後も新設が計画されています（小川 2018）。林業大学校を発展させ、充実した教育活動を今後も行っていくためには、林業大学校に焦点を当て、学生生活や教育全般の現状を把握し、教育活動の改善を進めていくことが不可欠です。特に、入学した学生が受けた一般入試や推薦入試といった入学試験の種類による違いが、林業大学校での学生生活に及ぼす影響について検証することは林業大学校の入学者を確保する上で重要な課題です。

林業大学校に関する先行研究では、教育・カリキュラムの満足度などを中心とした学生に対する調査が行われてきました（千代・本間 2016；小川 2018）。これらの調査では、林業大学校の教育活動について、学生の半数以上が満足していることや、学生と教職員との親密さなどが満足度に影響を与えていたとする結果が示されました。先行研究では満足度に関する結果は明らかにされましたが、林業大学校に入学した学生が受けた一般入試や推薦入試といった入学試験の種類によって、学生生活に及ぼす影響に関する調査はないのが現状です。

## 1 調査概要

上述の背景のもと、本調査では林業大学校に在籍する学生を対象に、学生生活について入学試験の種類による学生の考えの違いを明らかにすることとしました。長野県林業大学校の協力を得て、1年生および2年生の39名全員に対し、質問紙調査を行いました。

質問紙の内容は学生の年齢や最終学歴などの基本的な属性をはじめ、「林業大学校での生活に対する考え」「林業の知識・スキルや興味関心を高める上で重要だと考えた活動」「林業大学校で教育を受けて向上した知識・スキル」などについて尋ねました。

得られた結果は単純集計後、一般入試を受けて入学した学生（以下一般入試入学者）と推薦入試を受け、入学した学生（以下推薦入試入学者）に分け、両者の考えの違いを確認しました。また、入学試験の種類に加え、学年ごとの結果も確認し、一般入試と推薦入試の両方の入学試験を受けた学生3名は除き、36名の結果を分析しました（表-1）。なお、結果を示した表には、回答の割合が高い数値に濃色を付け、割合が低くなるほど、薄色としています（表-2、表-3、表-4）。

表－1. 回答者の内訳（入学試験ごとの割合と人数）

一般入試入学者						推薦入試入学者					
1年生		2年生		合計		1年生		2年生		合計	
(% / 名)		(% / 名)		(% / 名)		(% / 名)		(% / 名)		(% / 名)	
44.4	4	55.6	5	100.0	9	48.1	13	51.9	14	100.0	27

## 長野県林業大学校の概要

長野県林業大学校は我が国を代表する林業産地である「木曽」地域に所在しています。林業の知識習得にとどまらず、寮生活を通じ、学生の人間性も高めていく「全人教育」を掲げています（長野県 2018a : 2018b）。

長野県林業大学校は 1978(昭和 53)年に長野県林業大学校条例が制定され、開校の準備期間を経て、1979(昭和 54)年に開校しました。学校種は専修学校で、「林業専門課程」を有しています。修業年限は 2 年で、定員は各学年 20 名、計 40 名(2 学年)となっています（長野県 2018a）。

学生の出身地域は、県内出身者が 63.2%（平成 29 年度入学者）、65.0%（平成 30 年度入学者）で半数以上を占めています。性別は 8 割以上が男性ですが、女性も 10.5%（平成 29 年度入学者）、15.0%（平成 30 年度入学者）在籍しています（長野県 2017 : 2018a）。学修費用(平成 30 年度)は、授業料 11 万 8800 円、国内外への研修費、教材費、寮費や食費など年間おおよそ 88 万円から 94 万円程度が必要とされています。私立大学などへの進学よりも、経済的な金額となっています（長野県 2018b）。

入学資格は、高校卒業程度の学力を有する者とされ、年齢制限はありません（長野県 2018c）。入学試験は一般入試と推薦入試があります。推薦入試を受験する場合は、学校長の推薦が必要です。試験の内容は、受ける試験の種類によって異なります。共通して、一般入試や推薦入試には人物考査の面接があります。一般入試では「高校で得た基礎学力を前提に、提示した素材により、文章理解・資料解釈を総合的に問う」総合問題（90 分）と呼ばれる筆記試験や推薦入試では小論文（60 分）があります（長野県 2018c）。

競争倍率は、一般入試 2.67 倍、推薦入試 1.92 倍（平成 29 年度）、一般入試 2.33 倍、推薦入試 1.43 倍（平成 30 年度）となっています。開校以来の平均倍率は、一般入試 2.27 倍、推薦入試 1.42 倍で高い倍率を維持しています（長野県 2017 : 2018a）。

また、専修学校であることや授業時間数などの基準を満たしているため、学生は卒業時に専門士の称号や大学 3 年次編入学試験の受験資格などが得られます（長野県 2018a）。学生は、在学中に林業に関連する資格習得はもちろんのこと、他にも様々な資格を習得でき、就職のサポートも充実しています（長野県 2018a : 2018b）。卒業生数は開校以来 699 名（平成 29 年度卒業生まで）を数え、卒業後の進路はほとんどが林業に関連する職業に従事しています（長野県 2018a : 2018b）。長野県林業大学校は、開校以来、多くの人材を林業界に輩出しており、我が国を代表する林業教育機関になっています。

## 2 結果

### (1) 学生の属性

学生の回答から、以下のことがわかりました。まず、学生の属性についてです。一般入試や推薦入試といった入学試験の種類に関係なく、それぞれの学生には以下の項目で共通点が見られました。

学生の主な年齢構成は 18 歳から 20 歳までで、林業大学校への入学前の職業や立場は学生・生徒、林業大学校への志望順位は第一志望であり、緑の青年就業準備給付金といった奨学金の受給はしていない学生が多く見られました。また、学費や生活費などの負担者は保護者で、保護者の職業については、ほとんどの学生が林業従事者ではないと答えました。卒業後の進路は、林業関連に就職を予定・希望していました。

上述の共通点が見られた一方で、試験ごとの違いも見られました。出身地域は、一般入試入学者が県外出身者、推薦入試入学者は県内出身者、最終学歴は一般入試入学者が大学や短期大学など高等教育機関の卒業者、推薦入試入学者が高校卒業者でした。最終学歴の専攻は一般入試入学者が林業関連の専攻、推薦入試入学者は普通科や商業科など非林業系の専攻が多く見られました。実家の場所は、一般入試入学者が都市部に多く所在し、推薦入試入学者は農山村部が多く見られました。実家の山林所有は、多くの学生が所有していないと答え、一般入試入学者よりも推薦入試入学者で高い所有の割合が見られました。

## (2) 林業大学校での生活に対する考え

次に、本調査の中心となる質問項目の結果です。「林業大学校での生活に対する考え」については、「林業大学校のことが好きだ」と入学試験の種類に関わらず、すべての学生が考えていました。また、「寮生活は楽しかった」「先生や職員は親身になってくれる」「一生の友人ができた」などの項目をはじめ、満足度に関わる「教務等の事務に満足」などの項目においても、一般入試入学者や推薦入試入学者は多くの学生が肯定的な考えを示しました。特に、一般入試入学者の2年生はその傾向が顕著に見られました(表-2)。

表-2. 林業大学校での生活に対する考え

「強く思う」「そう思う」 と回答した者	一般入試入学者						推薦入試入学者					
	1年 n=4		2年 n=5		合計 n=9		1年 n=13		2年 n=13		合計 n=26	
	%	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%	名
林業大学校のことが好きだ	100.0	4	100.0	5	100.0	9	100.0	13	100.0	13	100.0	26
寮生活が楽しかった	100.0	4	100.0	5	100.0	9	100.0	13	92.3	12	96.2	25
先生や職員は親身になってくれる	100.0	4	100.0	5	100.0	9	92.3	12	100.0	13	96.2	25
一生の友人ができた	100.0	4	100.0	5	100.0	9	84.6	11	100.0	13	92.3	24
林業のことが好きになった	100.0	4	100.0	5	100.0	9	84.6	11	92.3	12	88.5	23
悩みを相談できる体制があった	100.0	4	100.0	5	100.0	9	84.6	11	76.9	10	80.8	21
資格習得の支援は充実していた	75.0	3	100.0	5	88.9	8	100.0	13	100.0	13	100.0	26
入学し、勉強できたことが嬉しい	75.0	3	100.0	5	88.9	8	92.3	12	100.0	13	96.2	25
家族や友人に自分の大学校を勧めたい	25.0	1	100.0	5	66.7	6	84.6	11	69.2	9	76.9	20
経済的に大変だった	25.0	1	20.0	1	22.2	2	7.7	1	7.7	1	7.7	2
入学したことを後悔している	0.0	0	20.0	1	11.1	1	7.7	1	0.0	0	3.8	1
林業大学校をやめたいと考えたことがある	0.0	0	20.0	1	11.1	1	7.7	1	0.0	0	3.8	1
<b>教務等の事務に満足している</b>	100.0	4	100.0	5	100.0	9	100.0	13	84.6	11	92.3	24
<b>教員の指導方法・熱心さに満足である</b>	100.0	4	100.0	5	100.0	9	92.3	12	69.2	9	80.8	21
<b>カリキュラムや教育に満足している</b>	25.0	1	80.0	4	55.6	5	76.9	10	53.8	7	65.4	17
<b>教育施設・設備に満足している</b>	25.0	1	60.0	3	44.4	4	61.5	8	15.4	2	38.5	10

太字・・・満足度に関する項目

## (3) 林業の知識・スキルや興味関心を高める上で重要だと考えた活動

「林業の知識・スキルや興味関心を高める上で重要だと考えた活動」については、入学試験に関わらず、一般入試入学者や推薦入試入学者ともに、多くの学生がそれぞれの活動を重要だと考えていました。その中でも、すべての学生が「実習作業」を重要だと考えていました。また、推薦入試入学者よりも一般入試入学者で、重要だと考えた割合が高く見られました。一般入試入学者2年生はその割合が特に高く見られ、「地域との交流」や「授業(勉強)以外の学校行事」を除き、すべての学生が各活動について重要だと答えました(表-3)。

表－ 3. 林業の知識・スキルや興味関心を高める上で重要だと考えた活動

「とても重要」「重要」と回答した者	一般入試入学者						推薦入試入学者					
	1年 n=4		2年 n=5		合計 n=9		1年 n=13		2年 n=14		合計 n=27	
	%	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%	名
実習作業	100.0	4	100.0	5	100.0	9	100.0	13	100.0	14	100.0	27
インターンシップ(就業体験)	100.0	4	100.0	5	100.0	9	100.0	13	92.9	13	96.3	26
林業のことが好きだという気持ち	100.0	4	100.0	5	100.0	9	92.3	12	92.9	13	92.6	25
教室での授業(座学)	100.0	4	100.0	5	100.0	9	76.9	10	85.7	12	81.5	22
地域との交流	100.0	4	60.0	3	77.8	7	92.3	12	64.3	9	77.8	21
先生や職員との交流	75.0	3	100.0	5	88.9	8	100.0	13	92.9	13	96.3	26
企業や組合関係者の講演や講義	75.0	3	100.0	5	88.9	8	84.6	11	85.7	12	85.2	23
他の林業大学校との交流	75.0	3	100.0	5	88.9	8	100.0	13	71.4	10	85.2	23
海外や国内研修	75.0	3	100.0	5	88.9	8	100.0	13	92.9	13	96.3	26
授業(勉強)以外の学校行事	75.0	3	80.0	4	77.8	7	92.3	12	85.7	12	88.9	24
大学校の同級生や友人との交流	50.0	2	100.0	5	77.8	7	100.0	13	85.7	12	92.6	25

(4) 林業大学校で教育を受けて向上したと考えた知識・スキル

「林業大学校で教育を受けて向上したと考えた知識・スキル」については、「林業作業の技術」や「林業の重要性」など林業に関連する項目で、入学試験の種類を問わず、多くの学生が向上を実感していました。特に、一般入試入学者2年生は実感していた学生の割合が顕著に高く見られました。

林業に関連しない項目では、一般入試入学者において、向上したと考えた割合が推薦入試入学者よりも高く見られ、推薦入試入学者では向上を実感していなかった学生が多く見られました(表－4)。

表－ 4. 林業大学校で教育を受けて向上した知識・スキル

「とても向上した」「向上した」と回答した者	一般入試入学者						推薦入試入学者					
	1年 n=4		2年 n=5		合計 n=9		1年 n=13		2年 n=13		合計 n=26	
	%	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%	名
<b>林業作業の技術</b>	100.0	4	100.0	5	100.0	9	100.0	13	100.0	13	100.0	26
<b>林業の重要性</b>	100.0	4	100.0	5	100.0	9	100.0	13	100.0	13	100.0	26
<b>日本の林業の現状についての知識</b>	100.0	4	100.0	5	100.0	9	92.3	12	100.0	13	96.2	25
<b>木材の加工や利用方法</b>	100.0	4	100.0	5	100.0	9	92.3	12	84.6	11	88.5	23
<b>林業作業時の安全に対する意識</b>	75.0	3	100.0	5	88.9	8	92.3	12	100.0	13	96.2	25
<b>世界の林業の現状についての知識</b>	75.0	3	100.0	5	88.9	8	76.9	10	100.0	13	88.5	23
<b>林業経営</b>	50.0	2	100.0	5	77.8	7	92.3	12	69.2	9	80.8	21
<b>林業が好きだという気持ち</b>	50.0	2	100.0	5	77.8	7	84.6	11	100.0	13	92.3	24
他の人と協力しながら作業を進めること	75.0	3	100.0	5	88.9	8	92.3	12	100.0	13	96.2	25
コミュニケーション能力	75.0	3	100.0	5	88.9	8	84.6	11	92.3	12	88.5	23
コンピューター、IT・情報操作	75.0	3	80.0	4	77.8	7	53.8	7	61.5	8	57.7	15
環境に対する意識	50.0	2	100.0	5	77.8	7	92.3	12	100.0	13	96.2	25
自分の考えをわかりやすく述べること	50.0	2	100.0	5	77.8	7	84.6	11	76.9	10	80.8	21
一般的な教養	75.0	3	80.0	4	77.8	7	61.5	8	46.2	6	53.8	14
リーダーシップ	50.0	2	80.0	4	66.7	6	76.9	10	53.8	7	65.4	17
自然に対する謙虚な気持ち	25.0	1	80.0	4	55.6	5	69.2	9	84.6	11	76.9	20
文書能力	25.0	1	80.0	4	55.6	5	69.2	9	46.2	6	57.7	15

太字・・・林業に直接に関連する項目

## おわりに

本調査では、長野県林業大学校の協力のもと、学生に質問紙調査を行い、学生が受けた一般入試や推薦入試といった入学試験の種類が、学生生活に及ぼす影響について検証しました。

その結果、学生は入学試験の種類に関わらず、林業大学校での学生生活について肯定的に考えており、林業の知識・スキルや興味関心を高める上で、林業大学校での様々な活動について重要視していました。また、林業大学校で教育を受けて、向上した知識・スキルについては、林業関連の知識・スキルの向上を実感していました。一般入試入学者や推薦入試入学者ともに多くの質問項目では、共通した考えを持っていることが明らかになりました。しかし、「林業大学校での生活に対する考え」では一般入試入学者の方が推薦入試入学者よりも、肯定的な考えを持っていました。「教育を受けて向上したと考えた知識・スキル」では、林業に関連しない項目などで、推薦入試入学者より一般入試入学者の方が「向上」を実感していた割合がより高い傾向が見られるなど、両者の「違い」も示されました。特に、一般入試入学者では2年生で顕著にその傾向が見られ、推薦入試入学者とは異なる結果も見られました。

最後に今後の課題です。本調査では、学生の示した結果の報告にとどまり、結果をもとにした、詳しい要因の分析までには至っていません。どのような要因が関係しているのか、要因の分析を行うことが必要です。また、長野県林業大学校を対象としました。一校の結果だけでは、我が国の林業大学校について、一般的に見られる結果であるとは言えません。林業大学校で見られる一般的な傾向であることを示すためには、他の林業大学校でも同様の調査を行い、結果の分析をする必要があります。また、大学などの高等教育機関では、入学試験の成績と学生の在学中の学修や生活態度、学業成績などとの関連性について調査した結果が、多数存在しています。林業大学校や林業大学校の学生について、その見識をさらに深めていくためには、林業大学校でも同様に入学試験の成績や在学中の成績なども調査する必要があります。個人情報保護の問題もあり、容易ではありませんが、可能な範囲で、これらの課題に取り組み、さらなる調査を進めていきます。

## (謝辞)

本調査では、長野県林業大学校の教職員および学生の方々にご協力いただきました。また、名古屋大学高等教育研究センター丸山和昭氏や、同大学教養教育院 Mark Weeks 氏には貴重な助言をいただきました。関係者の方々に深くお礼申し上げます。

## (引用文献)

千代宗平・本間丈瑠(2016)

全国の林業大学校学生の意識調査. 中部森林技術交流発表会要旨集 140-144

小川高広 (2018)

林業大学校における学生満足度の規定要因—京都府立林業大学校を事例に一. 中部森林研究 66 : 67-72

長野県(2017)

平成 29 年度 長野県林業大学校便覧

長野県(2018a)

平成 30 年度 長野県林業大学校便覧

長野県(2018b)

平成 31 年度 長野県林業大学校学校案内

長野県(2018c)

平成 31 年度 長野県林業大学校学生募集要項